

○一関地区広域行政組合第8期介護保険事業計画（案）に対する意見に対する考え方

2名 4件

No.	該当箇所	意見等の内容	意見に対する考え方
1	P 1 ≪総論≫ 第1節 計画策定の背景	表記について「医療を要する者等人達について、 これらの者が 尊厳を保持し」としてはどうか。	介護保険法からの引用部分のため原文のまま掲載させていただきます。
2	P 2 ≪総論≫ 第2節 計画の課題 P 84 ≪各論≫ III 第8期計画の概要 第2節 第8期計画の具体的施策 6 様々な生活形態に対応したサービス資源の確保 (2) 介護人材の確保・育成・定着 P 79 同上 5 生活支援体制の整備・推進 (1) 生活支援体制の整備・推進	高齢者人口が令和3年をピークに減少しても要介護認定者数は令和22年（2040年）までは増加が続き、介護給付費も同様に増加すると見込まれる一方で、介護を支える人達の減少により、現在よりも介護が困難になることが明確であることから、介護人材不足等の早急な対策を考えるべきと思う。	若い世代を対象とした将来的な介護人材の育成や、職場環境の改善などに取り組んでまいります。 また、地域住民など多様な主体による生活支援体制の整備を推進してまいります。

No.	該当箇所	意見等の内容	意見に対する考え方
3	<p>P70 同上</p> <p>3 認知症の人（若年性認知症の人を含む。以下同じ）への支援対策の推進</p>	<p>年々高齢者の増加とともに独居老人世帯が増え、対話することもなく、外出機会も減少し、老化+脳の活動も衰え、認知症になることが加速している。</p> <p>広域行政組合では予防策と初期の対応に苦慮しているが、全域でのきめ細かい対応は人的制限により困難であると思われる。</p> <p>従って、各家庭での世話活動が基本となるが、見守る家族もいない中での取組としては、旧市町村や集落など、コミュニティでの見守り支援隊の組織化、行政の指導により予防活動の日常的な活動の場の設置、リーダーの養成などにより、心と身を動かし活性化に努めることが重要だと思う。支えがあれば、倒れない、倒れないために支えることが今後の認知症予防や治療になると思われる。</p>	<p>ご指摘のとおり状況ですので、介護予防・日常生活支援総合事業や認知症サポーター養成講座等を実施しながら住民相互の関わりを大切にし、認知症の「共生」と「予防」を意識した地域への働きかけを行ってまいります。</p> <p>また、認知症地域支援推進員や生活支援コーディネーター、地域包括支援センターと市町が連携を取りながら、地域で認知症の人と介護者を支える体制づくりを推進します。</p>
4	<p>P87 同上</p> <p>7 サービスの円滑な提供</p> <p>(2) 高齢者の権利擁護の推進と介護者への支援並びにサービス向上のための各種会議や研修会の開催</p>	<p>成年後見制度を知っているかというアンケートで「知らない」と答えた人が多かったが、今後、ますます必要になると思う。広く周知することが急務ではないか。</p>	<p>構成市町及び管内関係機関等とも連携しながら、成年後見制度だけではなく広く権利擁護にかかる諸制度、事業の広報啓発を行い、住民への理解の浸透に努めてまいります。</p>